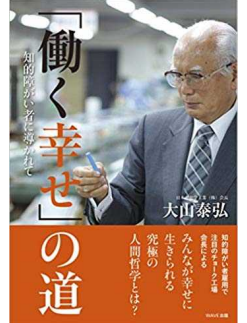


「ボクたちは子どもたちを何へと導いているのか？」

-将来にわたって幸せに生きるってどういうことだろうか？-

春休みに読んだ右の本への僕の考察です。いい本だから余裕があれば買って読んでみるとういんですよ。平成31年2月に亡くなられた日本理化学工業の大山泰弘会長の著書です。障害者雇用で有名な人だし、「プロフェッショナル仕事の流儀」でもやっていたので知っている人は多いのではないかと思います。

詳細は実際に読んでもらうとして、大切な「幹」の話だけ。枝葉は自分で捉えるのが良いと思います。以下、たとえ話だけれど自分のことだと想像してみてください。



今日、子どもを送り出した14時40分、あなたは教室に帰ってきて「ふうー。疲れたなあ。」とため息をついた途端、突然のめまい。そのまま倒れて意識を失い、気が付いたら病院のベッドの上でした。若年性のくも膜下出血。以下の後遺症が残りました。

・ 右足の不随や手指が硬くなって巧緻性が失われた状態となった。

・ 高次脳機能障害(短期記憶の欠落や言葉がすぐに出てこない)が残った。

・ 転倒時に前歯5本の欠損した。

おそらく「絶望する」と思うのですが、ここまで想像して、やっと当事者感覚だと思うんです。指先が上手に使えない子、認知機能に障害のある子、歯が欠損して物を噛みにくい子、目の前にいるよなあ…と。で、あなただったらそこから何を再び目指します?という話。何を目指そうと言われたら、将来の喜びにつながると思います?以下で2パターン考えてみました。

例えば①

・あなたには重篤な障害が残ってしまったので、もう無理せずに暮らせればいい。つらいことは一切やらないでいいから、自分の好きな遊びをすればいい。余暇と快樂の幅をひたすら広げればいい。トレーニングもつらいのはしなくていい。(でも、10年後には社会に戻ってね。)

例えば②

・あなたに障害が残ってしまったことは事実で、それは「不便」さをもたらすだろうけれど、ちょっと辛いこともあるかもしれないけれど、その意味合いと、価値、重みを自分自身で理解して、頑張ってトレーニングをして、泣いちゃうこともあるかもしれないけれど、その時には励ますから、またいつの日にか人に必要とされ、人の役に立ち、褒められ、愛される人になるように頑張ろうよ。(そして、10年後に社会に羽ばたいてね。)

これには「夢やねがい」をもつことの大切さや、日々、学ぶ事への意味づけ、価値づけ、重みづけ、方向付けなど、キャリアの根幹を担う所の理解や、教育が何故存在しているのか?自由とな何なのか?自己実現とは一体何なのか?といった理解が絡んでいると思います。私たち教員自身も、教育原理や教育哲学と行った「そもそもなんで教育が行われるんだろう?」の理解をすることによって、子どもの内面への働きかけ方が変わるのでは無いかと思います。